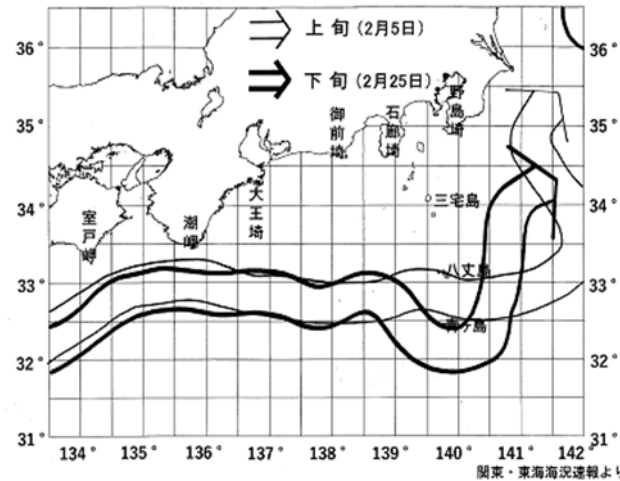


漁海況月報

令和8年2月1日

No. 2 ~2月28日

静岡県水産・海洋技術研究所
(電話 054-627-1815)
静岡県水産・海洋技術研究所 伊豆分場
(電話 0558-22-0835)



2月定地水温の旬平均値(°C) (下段は平年値*からの偏差)

期間	伊東	稲取	下田	雲見	沼津	焼津
上旬	14.2	15.1	15.3	13.9	12.9	14.0
	0.1	0.5	1.0	-0.4	-1.2	-0.1
中旬	14.4	15.1	14.7	14.3	13.7	14.7
	0.6	0.6	0.6	-0.2	-0.7	0.5
下旬	14.5	15.0	14.7	14.6	14.6	14.4
	0.7	0.5	0.6	0.3	0.4	0.4
月	14.4	15.1	14.9	14.2	13.7	14.4
	0.5	0.5	0.7	-0.1	-0.6	0.2

*平年値：過去30年(平成3年~令和2年)の平均値

【黒潮流路】

2月を通じてC型であり、潮岬沖から東進し、八丈島または八丈島の南を通過しながら北上する流路となった。

上旬は潮岬沖から八丈島を通過して野島崎沖まで東進し、野島崎沖33.0°N付近からS字状に北上し、北東に流去した。

中旬は潮岬沖から御前崎沖まで東進した後、石廊崎沖32.5°N付近まで離岸し、八丈島を通過しながら北東に流去した。

下旬は潮岬沖から石廊崎沖まで東進し、八丈島の南32.5°N付近まで離岸した後、北上して北東に流去した。暖水波及が石廊崎沖の黒潮屈曲部から八丈島や三宅島に向けて見られた。

【沿岸域水温】

上旬は沼津で「やや低め」、伊東、雲見、焼津で「平年並」、稲取、下田で「やや高め」であった。中旬は沼津で「やや低め」、雲見で「平年並」、伊東、稲取、下田、焼津で「やや高め」であった。下旬は雲見、沼津、焼津で「平年並」、稲取、下田で「やや高め」であった。

【竿釣カツオ】

2月の県内主要5港(沼津、清水、焼津、小川、御前崎)における近海及び沿岸竿釣り船によるカツオの水揚げはなかった(前年同月の水揚げなし)。

【定置網】

伊豆半島東岸大型定置網7か統(伊豆山、古網、川奈、富戸、赤沢、北川、谷津)の水揚量は189.9トンで、前年(85.5トン)の2.2倍、平年(257.1トン)の74%であった。また、1か統当たりの水揚量は27.1トン(前年:12.2トン、平年:36.7トン)であった。水揚量の多い漁場は、古網漁場(63.1トン、マアジ、さば類、ブリ)、次いで伊豆山漁場(46.4トン、マアジ、さば類、マルソウダ)であった。

多獲された魚種の水揚量は以下(表)のとおりで、マアジは73.5トン、前年比4.7倍、平年比1.5倍であった。クサヤモロは31.0トン、平年比59996.2倍(前年水揚げ無し)で、平成9年以降、最も水揚量が多かった。さば類は15.3トン、前年比55%、平年比50%であった。水揚げされたさば類のうち、マサバは5.2トン、前年比56%、平年比70%、ゴマサバは9.3トン、前年比50%、平年比37%、さばっこは0.9トン、平年比1.4倍(前年水揚げ無し)であった。スルメイカは14.3トン、前年比3.3倍、平年比60%であった。マルソウダは13.4トン、前年比96%、平年比14.4倍であった。その他の魚種については、ヒラソウダ(7.2トン、前年比160.6倍、平年比222.5倍)、カンパチ(0.3トン、前年比5.1倍、平年比7.2倍)、モロ(0.5トン、平年比14.4倍(前年水揚げ無し))が昭和57年以降、キハダ(3.4トン、前年比1.4倍、平年比29.1倍)が昭和62年以降、最も水揚量が多かった。

多獲された魚種の主な漁場は、以下(表)のとおりで、各漁場の水揚量の割合は、マアジでは古網漁場が54%(39.9トン)、伊豆山漁場が40%(29.7トン)、クサヤモロでは谷津漁場が65%(20.2トン)、赤沢漁場が32%(10.1トン)、さば類では伊豆山漁場が41%(6.2トン)、古網漁場が34%(5.2トン)、スルメイカでは北川漁場が35%(5.0トン)、谷津漁場が19%(2.7トン)、古網漁場が18%(2.6トン)、マルソウダでは伊豆山漁場が39%(5.2トン)、古網漁場が17%(2.2トン)、北川漁場が16%(2.1トン)、富戸漁場が15%(2.0トン)であった。

*平年：昭和57年~令和6年の平均値

多獲された魚種の水揚量と主な漁場

魚種	水揚量(トン)	前年比	平年比	主な漁場
マアジ	73.5	4.65	1.51	古網、伊豆山
クサヤモロ	31.0	-	59996.17	谷津、赤沢
さば類	15.3	0.55	0.50	伊豆山、古網
スルメイカ	14.3	3.32	0.60	北川、谷津、古網
マルソウダ	13.4	0.96	14.43	伊豆山、古網、北川、富戸

[サバたもすくい・棒受網]

小川港所属の棒受網漁船は、たもすくい漁業主体で操業した。漁場は、上旬は三本、中旬はひょうたん瀬、三本及び大島千波、下旬は三本に形成された。水揚量はゴマサバ39.6トン（前年同月比37%）であり、1隻当たり水揚量は5.0トン（前年同月比79%）であった。マサバは混獲される程度であった。平均単価は、マサバは160円/kgで前年同月（293円/kg）を下回った。ゴマサバは284円/kgで前月（425円/kg）を下回り、前年同月（306円/kg）並であった。漁獲物の体長組成は、36cmにモードを持つ単峰型を示した。

小川港 さば類（たもすくい・棒受網漁業）水揚量

期 間	水揚量（トン）		水揚 日数	水揚 隻数	水揚/隻（トン）		平均単価（円/kg）		漁 場
	マサバ	ゴマ サバ			マサバ	ゴマ サバ	マサバ	ゴマ サバ	
R8年2月上旬	-	0.1	2	2	-	0.4	-	636	三本
中旬	0.0	33.7	5	5	0.0	6.7	160	283	ひょうたん瀬、三本、大島千波
下旬	-	5.1	1	1	-	5.1	-	230	三本
R8年2月計	0.0	39.6	8	8	0.0	5.0	160	284	三本、大島千波、利島
R7年2月計	1.5	106.9	11	17	0.1	6.3	293	306	大島千波、利島
R6年2月計	64.8	157.5	13	21	3.1	7.5	260	202	大島千波、利島

*水揚量については、旬ごと、魚種ごとに四捨五入しているため、月計と一致しないことがある。

*表中の「-」は水揚げがなかったことを示す。

[まき網（いわし類）]

マイワシの水揚量は、小川港では0.5トン（前年同月水揚げなし、平年同月比0.2%）、沼津港では0.2トン（前年同月水揚げなし、平年同月比0.03%）、伊東港、静浦港では水揚げがなかった。カタクチイワシは、伊東港、静浦港、沼津港、小川港ともに水揚げがなかった。

なお、伊豆半島東岸の大型定置網7か統の水揚量は、マイワシは1.0トン、カタクチイワシは水揚げがなかった。
*平年：過去5か年（令和2年～令和6年）の平均値

[調査船駿河丸の動向]

2月 3日 ～ 2月 4日 地先定線観測調査 (2日間)
2月 24日 ドック回航（カナサシ重工） (1日間)

静岡県水産・海洋技術研究所のホームページ
 トップページ…………… <https://fish-exp.pref.shizuoka.jp/>
 海洋情報のページ…………… <https://fish-exp.pref.shizuoka.jp/O1ocean/>
 右のQRコードから、人工衛星による観測情報、県内沿岸水温情報、
 関東・東海海況速報等を見ることができます。

